

有識者の意見



クレイグ・コンサルティング
代表取締役
おがわ みつお
小河 光生 氏

長引くコロナ禍で企業も個人も我慢が強いられる時間が続いている。先の見通せない将来に対して、働き方や暮らしそのものに大きな影響が出ており、それは人々の意識や考え方にも変化を与えている。その意識変化の中でも大きいのは、個人が社会との関係性を考えざるを得なくなっていることであろう。コロナ禍の初期にマスクが店頭から消え、多くの方がマスクを求めて右往左往したことは記憶に新しい。自分一人良くても、社会が健康でなければ良い暮らしはできない。個人が、そして企業が、社会とのつながりを否が応でも強く考えざるを得ない状況が続いている。SDGs、ESGなどのサステナビリティの動きが加速し、もはや利益確保だけを考える企業は時代遅れであるとみなされるトレンドはコロナ禍においてさらに進むだろう。

リケンテクノスは、昨年からサステナビリティレポートを発行しSDGsに沿った活動開示に挑戦し、さらに今年から「Blue Challenge(ブルーチャレンジ)」と銘打った新しい社内外への情報開示を始めた。Blue Challenge(ブルーチャレンジ)は同社が3か年中期経営計画の中でサステナブルな社会づくりにコミットしていく、具体的な施策の一環として位置づけられる積極的な取り組みである。今回のレポートの特集にある、感染症対策製品「リケガード」は同社の絶え間ない、地道な開発姿勢が作り出した、会心のヒット作ではないだろうか。時宜を得た発売は同社の真摯な開発への思いが結実したもので、トップメッセージで常盤社長が「本質的な価値提供を行うことがわが社の使命」と言われた、その企業姿勢の表れであり、高く評価すべき

と考える。

さて、昨年わたしは本稿において、同社に三つの課題を申し述べた。ひとつは社内浸透に取り組んでほしい、という点。この点は、今年からBlue Challenge(ブルーチャレンジ)として同社の活動を一つのコンセプトと位置づけ開始したことが進捗である。今後もこの「Blue Challenge(ブルーチャレンジ)」の傘の元さまざまなサステナビリティの活動発信に挑戦いただきたい。そして、社内外にその成果を開示することで、さらにその取り組みの意義や成果に社員が触れる機会が増えるだろう。最終的には「Blue Challenge(ブルーチャレンジ)」と言えばリケンテクノスと結びつくブランドに育てていただきたい。

二つ目の課題はサステナビリティの将来像を明示して、そこに至るKPI(定量的な目標値)を設定してほしいという点。この点は本報告書の中には書かれていないが、社内で事業部門ごとにKPIを設定してその目標管理を進めて、一步一步実績を積んでいると伺っている。KPIを将来的にはBlue Challenge(ブルーチャレンジ)に開示いただき、広くステークホルダーにコミットしていける段階に進んでいただきたい。

最後の「価値創造ストーリー」については、今回の報告書では取り組みが見られなかった。価値創造ストーリーは、投資家がもっとも重視する情報であり、自社の強みやビジネスモデルをアピールする絶好のチャンスでもある。リケガードという成果が出た今こそ、価値創造ストーリーを策定する好機ではないかと考える。

最後にひとつご提案したい。役員がサステナビリティを勉強する機会を作ってはいかがだろうか。最近では他社でも役員層でのサステナビリティの勉強会が活発に開かれている。SDGsやESGが経営の中核の課題に入ってきていることが背景にあると考える。リケンテクノスがBlue Challenge(ブルーチャレンジ)を社会のため、と同時に、企業価値向上に同時に結び付けていく、そういう挑戦につなげる一年にしたい。

有識者の意見を受けて

リケンテクノス株式会社 代表取締役 社長執行役員 **常盤 和明**

ご指摘いただいたサステナビリティに関するKPI目標の開示については、コロナ禍において目標達成が難しい面もあり慎重に検討してまいります。また、「価値創造ストーリー」の策定については、今後前向

きに取り組んでまいります。そして、今年始動したBlue Challenge(ブルーチャレンジ)の波を様々なところへ波及させるため、グローバルに活動を強化してまいります。

編集後記

本報告書より報告書名を「Blue Challenge(ブルーチャレンジ)レポート」とし、リケンテクノスグループの挑戦をなるべくわかりやすくお伝えできるように編集いたしました。

本報告書を通じてリケンテクノスグループの取り組みをご理解いただくとともに、本報告書への率直かつ忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

本報告書取扱部署代表者
取締役 上席執行役員 経営企画本部長 兼 購買本部管掌：北出 太三郎
編集メンバー
品質保証本部 マネジメントシステム部：井上 宏一、笠原 康生
経営企画部 企業ブランディンググループ：吉岡 さやか、大林 美桜



リケンテクノス ウェイ

私たちは科学の力で
豊かさ、安心、快適を創り出す
チャレンジメーカーです
独創的で卓越した
樹脂素材の配合加工技術で
企業と人と社会に
新たな価値と喜びを提供し続けます

We are a challenger
that harnesses the power of science
to improve the quality of life
and create a safe, affluent society.
We continuously provide new value and satisfaction
to people, companies and society
through our original and superior formulations
and manufacturing technologies of multiple resins.

お問い合わせ先

この報告書の内容に関するご意見、お問い合わせは下記で承っています。

リケンテクノス株式会社 経営企画部

〒101-8336

東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地 ワテラストワー

TEL:03-5297-1631 FAX:03-5297-1660

ホームページ

<https://www.rikentechnos.co.jp>

2020年10月発行

